

令和7年度 卒業論文要旨

学 生 氏 名	兼城 大
論 文 タ イ ト ル	強い紐帯と脆弱性：インドネシア華人系コングロマリットのネットワーク分析——GAFAMとユダヤ人ディアスポラを参照枠として——
要 旨	<p>本論文は、インドネシア華人系コングロマリットを対象に、Granovetter の「弱い紐帯」と「埋め込み」論を用いて、企業ネットワークが歴史・制度・政治環境の中で形成されてきた過程を分析する。家族統治に支えられた強い紐帯と、上場、外資提携、越境持株などによる弱い紐帯がいかに補完的に設計されてきたかを、歴史分析、主要企業（三大グループ）の比較、さらに弱い紐帯の制度化という観点から GAFAM を参照枠とした検討を通じて明らかにした。分析の結果、華人系企業は排除や政治的不確実性への対応として政権依存型の強い紐帯を形成してきたが、1997～1998年危機後は弱い紐帯の制度化が不可欠となった。結果として、家族統治を維持しつつ外部接続を組み込む二層構造が確立し、国際化とリスク分散を支えた。他方、弱い紐帯を中核化する例も見られた。比較より、国家への埋め込みを基盤とする華人系と、自律的デジタル基盤を埋め込み先とする GAFAM の対照性が示された。</p>